

館報 教育記念館

No. 70
平成20年3月 発行



アイディア ロボット フェスタ

中学生・高校生・高専生による
ロボット展&チャレンジデー



ロボット展会場



ロボット作り教室

主な内容

- ◎教育時評 富山県中学校長会 会長 麻畠 裕之 2
- ◎恒例展 「教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」 3
- 「みんながんばってます作品展」
- 「富山県造形教育作品展」
- 「アイディアロボットフェスタ・ロボット展」
- 「富山県中学校美術展」
- ◎わが校の歴史から ★富山市立清水町小学校 4
- ★富山市立愛宕小学校 5
- ★小矢部市立岩尾滝小学校 6
- ★南砺市立福野中学校 7
- ◎「学ほう！ふるさと未来」支援事業報告会 8
- 平成20年度の展示計画、あとがき



発行所／財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎ (076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 齊藤和夫 印刷所／いおさき印刷株式会社

還暦の新制中学

富山県中学校長会

会長 麻畠 裕之



新制中学校は、昭和22年4月の発足から数えて、今年度で60年目を迎えました。人にたとえると還暦です。この節目の年を記念して富山県中学校長会では、現在までの公立中学校の歴代校長名簿と各中学校の系譜を載せた記念誌を作成しました。

出来上がった記念誌で中学校の移り変わりを見ますと、設立されてから次々と学校を統合して現在に至っている学校もあれば、設立以来そのままの学校もあることがわかります。また、私が、まったく知らない中学校もありました。魚津市に昭和22年度1年間だけ海望中学校という学校があったようです。なんてすてきな校名でしょう。こうして記念誌を読んでいるうちに、新制中学が「オギャー」と生まれたときの様子が知りたくなりました。

そこで「富山県教育史」や「中学校長会20年記念誌」をひもといたり、私の校区にお住まいの大先輩の校長さんに当時のことを伺ったりしました。

そうして振り返ってみると新制中学校の誕生は、なかなか難産だったようです。おまけに文部省の新学制の正式通達が出てからわずかに1か月半の準備期間しかなく、早産でもありました。

新しい中学校で生徒を学ばせようにも、戦後の混乱期です。まず学校の敷地がない、校舎がない、校舎を造る資材がない、教員がない、机、いすがない、教材教具がないのいないづくしです。無茶な話です。

しかし、当時の住民、自治体、保護者、生徒、教員はがんばりました。学校敷地の整地作業、資材運搬、学校道路の建設などに地域住民、

保護者があげて参加しました。また、中学生も整地作業などに進んで参加しました。校長も、教員の確保や資材確保などに日夜奔走しました。

自分たちの食べ物もままならない敗戦直後の時代にどうして人々は、新制中学校の建設に一生懸命に取り組んだのでしょうか。富山県教育史に、県下最初の芝園中学校開校式に寄せた羽根知事の祝辞が載っていました。一部を引用しますと「日本は今非常な困難な事態にあります。国内は非常に混乱して生活も行き詰まり、道義も退廃して誠に哀れな有様であります。…この日本再建の望をこの一途にかけております…」とあります。また、旧制中学校は、ごく一部の子供しか進学できませんでしたが、人々には、すべての子供に等しく中学校教育を受けさせたいという強い願いもありました。これらの希望、願いに支えられて新制中学校は誕生したのです。

それから60年、日本は豊かな国になりました。その発展の基礎の一部を中学校教育が支えてきたと自負しても許されるでしょう。

しかし、今日、グローバル化、情報化、少子高齢化などが進展する中、市場原理の導入などさまざまな教育改革が進められ、中学校は大きな変化の波を次々と受けて進路を見失いがちになっています。こうしたとき、新制中学校が誕生したときの「教育で国を再建しよう」、「どの子供にも等しく中学校教育を」という当時の人々の願いを今一度思い起こしたいものです。

平成19年度 後期恒例展（1階 多目的ギャラリー）

第23回

教職員退職厚生部富山支部会員作品展



審査会もなく、皆ですばらしい点を批評し合う点がこの作品展のよさ。「継続は力なり」の感がする作品が数多くありました。

展示期間中、約500名の方々に鑑賞していただきました。



第25回

みんながんばってます展



県内特別支援学校に通う皆さんの作品235点を一同に会した作品展。

日ごろの学習を通して制作された作品を他校の皆さんやその家族、一般の方々とともに鑑賞し合うことができました。



第19回

富山県造形教育作品展



県内の幼（保）・小・中・高校生を対象とした大規模な作品展。

各郡市より選抜された平面・立体、個人・共同の作品が所狭しと展示され、1階ギャラリーは明るく賑やかな会場となりました。



第3回

アイディアロボットフェスタ・ロボット展



中学校7校より8台、工業高校7校より18台、高等専門学校2校より8台のロボットが展示され、ロボットのデモンストレーションもありました。ロボット作り教室も大盛会でした。



第18回

富山県中学校美術展



県内中学校から選ばれた200作品が展示されました。まさしくギャラリーにふさわしい作品ばかり。県中教研美術部会役員のみなさまには、作品の展示・搬出などの協力をいただきました。



第56回

富山大学学生卒業記念書展



第56回を数える富山大学学生卒業記念書展。指導教員と書道部員の作品が計18点、堂々と展示されました。週1回ほど学生会館に集まって書に励み、1年間の成果をこの書展に結集するのだそうです。





「ふるさと清水」の
精神をいつまでも
心に残そう清水町

富山市立清水町小学校



<校区の概要>

本校は、富山市の中心部に位置し、いたち川沿いに校区が広がっている。校区は比較的狭く、住宅も密集している。また近隣には中心市街地の商業施設が建ち並び、それに伴い幹線道路が校区内を縦横に走っており、交通の便はとても便利である。地域の方々は、地元に関心を寄せ、学校にも大変協力的である。

<学校の概要>

本校は大正8年柳町校と五番町校児童合わせて963名で開校され、今年度で88年目を迎えた。昭和30年頃には全校児童数が1300名を超えることもあったが、富山市中心部の児童数の減少により本年度をもって閉校する。4月からは星井町五番町小学校と統合し、富山市立中央小学校となり、新しい1歩を踏み出すこととなっている。

本校の歴史を辿ると、昭和25年、30年に食材の研究や家庭の食生活の改善に力を注ぎ、富山県学校給食優良校として表彰され、昭和32年には、給食優良校として文部大臣表彰を受けた。昭和25年から34年までは、子供たちが健康的に向上しようという意識や自分の力で健康な生活をしていこうとする意識を育むことができるよう研究を行い、富山県健康優良学校として表彰を受けた。昭和37年には第15回全国造形教育大会が開催され、県内外の関係者に図画工作科の授業を公開し、全国にその成果を広めることができた。

さらに平成4年には富山市教育委員会学校週5日制研究推進校として、平成13年には、富山県小学校教育研究会の総合的な学習の時間の研究指定校として、昨年度からは富山市の英語活動研究推進校として、受け継いできた伝統の中で、個に応じた教育実践を通して県内外をリードしてきた学校といえる。

<本校の教育>

校区には年配の方々が多く、学校内にその方々が集まって将棋や手芸、パソコンなどの活動をさ

れる「いこいの部屋」が設置されている。そこでは休憩時に子供たちも集まり、一緒に話をしたり活動をしたり、またすぐ隣に幼稚園があり、小さい子供たちと接する機会が毎日あったりすることなど、いろいろな年齢層の人と関わる機会にたいへん恵まれている。そういったことから、人と関わる楽しさや大切さ、ふるさとを大切にしたいという思いが一人一人の児童に無意識のうちに培われていくようである。

このことが学校内での縦割りグループ活動や集会、学校行事でも大変役立っている。特に最終年度である今年度は、地域に信頼される学校を創造し、地域・保護者・児童の満足度が向上することはもちろん、清水町小学校を温かく見守ってくださった地域に感謝し、希望と自信をもった子供たちを新しい学校へ送り出すことを目標に取り組んでいる。

その取り組みの1つとして5月に行われた運動会では、テーマを「パワー全開！みんなで協力！最後まで！心に残そう清水町」と掲げ、全校児童が心をつなげて取り組んだ。全員で清水町のエールを行ったり、地域への感謝の気持ちを競技に盛り込んだりして閉校の年にふさわしく、心に残る運動会になった。

また、総合的な学習の時間には「発見！たんけん！清水町のじまん」、「清水町のおすすめーガイドブックを作ろうー」などといったテーマで取り組んでいる。一人一人が、校歌に歌われている「ふるさと清水」という言葉に込められている思いを大切にし、地域や学校への愛着を深め、さらにこれから自分が地域や学校にどのようにかわっていかねばよいかを考え、学習に励んでいる。

これからも日々の教育活動、各種行事において清水町小学校として最後の活動であることを意識し、地域とのつながりを大切にしながら思い出いっぱいの1年にしようと全校一丸となって取り組んでいる。

わが校の歴史から



創校136年の歴史と伝統

—愛宕の学びは続く—

富山市立愛宕小学校



<学校の概要>

本校は、富山駅から西へ徒歩10分の市街地にあり、校地の西側近くには神通川が流れている。136年余りの伝統を誇るが、平成20年には芝園小学校と統合する。

地域では、「愛宕魂」という言葉を大事にしている。この言葉には「探求する科学の心」「伝統を受け継ぎ未来を切り開くたくましさ」をもった子供たちに育ってほしいという願いがある。また、本校の開校当時の名前であった「履新」という言葉には、新しいことを経験しながら学ぶ姿勢を大切にしたいという願いが込められている。日課の大休憩の時間にもこの言葉を使い、子供たちの意識の中にも位置づけている。

子供たちは、素直で明るく、誠実さをもっている。子供たちには、「履新」という言葉に込められているように、経験を通して「できる自分」を感じながら、自分の夢に向かって自信をもって進ませたい。

<特色ある取り組み>

1 落ち葉はき

「サッサッサッ」今朝も落ち葉を掃く音が聞こえてくる。竹ぼうきを手にした子供たちが、一人また一人と歩道に集まってくる。「おはようございます」と4年生のAさんが道行く人に元気よく声をかけている。Aさんは、自分の気持ちがいいからあいさつをしていると言う。向かい側の歩道では、地域の人と同じように落ち葉はきをしている姿が見られ、同じ朝を迎えているという一体感を感じる。

記録写真から、この落ち葉はきの風景は、

昭和23年にも愛宕地区で見られたことがわかった。まさに、愛宕の学びが続いている姿だと感じる。

2 地域に学ぶ「総合的な学習の時間」

今年度、全学年「地域に学ぶ」学習に力を入れてきた。地域の様々な対象（人、もの、できごと）との出会いから、愛宕という地域のよさを見直し、地域に学ぶ姿勢を大切にしていきていくような子供を育てていきたいと考えている。

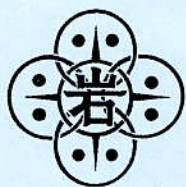
創校136年記念学習発表で、6年生は地域の歴史調査を基に創作した「タブの木の下で」という劇を発表した。愛宕の歴史を知る中で、力強く生きた地域の方の生き様に感動した子供たちが「今度はわたしたちが未来をつくる」と台詞を語る姿が印象的であった。

3 きらきら清掃

本校には、決められた清掃場所はない。子供たちは、自分の清掃する場所を自分で決めている。当然、清掃されない場所も出てくる。そんな所にはほこりがたまるが、それも子供たちが見つけて清掃している。高学年の子供たちが、さりげなく低学年の子供たちの手助けをする姿もよく見られる。この「きらきら清掃」を通して、自ら身の回りに働きかける子供たちに育ってきている。



わが校の歴史から



雪に負けない強さと
そよ風のやさしさを
—時計台のある学校—

小矢部市立岩尾滝小学校



<校区の概要>

本校は、「メルヘンの街」小矢部市の北西部に位置し、市街地より6km程山間に入り石川県津幡町と隣接する所にある。校区は7つの集落からなり、人口は約500人である。岩尾滝保育所と本校を併せて「岩尾滝学園」と称し、一緒に行っている運動会や学習発表会は、地域の行事として定着している。また、知的障害者施設の溪明園とも交流を行っている。

住民の学校教育への関心は高く、教育環境の整備や諸活動にはとても協力的である。地区の安全パトロール隊の巡回なども継続的に行われ、交通安全や不審者対策等、地域の手で子供たちを見守り育てようと熱心である。

<学校の概要>

明治6年に南谷村岩尾滝に岳瀧（よだけ）小学校として開設され、その後南谷村立岩尾滝尋常小学校、岩尾瀧国民学校、岩尾瀧小学校、石動町立岩尾瀧小学校を経て、小矢部市立岩尾滝小学校と改称された。昭和61年、「雪に負けない強さとそよ風のやさしさをもってほしい」という願いをこめて、札幌時計台をシンボルにした校舎が新築された。

現在、児童数は15名で複式の3学級編制である。地域の特性や少人数のよさを生かしながら、子供一人一人が生き生きと活動する楽しい学校づくりに努めている。本年度は、「よく聴き、表現する」「『にっこり言葉』で思いやる」「健康・安全に過ごす」など、知・徳・体のバランスのとれた子供の育成に取り組んでいる。

平成20年3月には、135年の長い歴史に幕を下ろす。子供たちには、本校で学んだことを誇りに新たな一步を踏み出してほしいと願っている。

<特色ある取り組み>

人間関係づくりの手法などを通して、相手の気持ちを考えて伝えるように指導している。

○おはようタイム

朝の授業開始前15分間を利用し、月曜日に「おはようタイム」（全校朝会）を設け、全員の子供のスピーチ、ゲーム、歌等の活動を通して、集団の規律を学びながら集う楽しさを味わえるようにしている。

○よだけタイム

2限と3限の業間を「よだけタイム」とし、運動チャレンジ（火・水・木）、自由遊び（月・金）で健康増進を図っている。また、遊びを通して、自然に親しんだり人間関係をよくしたりできるようにしている。

○なかよしタイム

子供と教職員の全員がランチルームで給食を食べた後、10分間を「なかよしタイム」として、学習の成果や児童が工夫した出しもの、誕生会、委員会からのお知らせなどの活動を行い、互いのよさを認め合ったり表現力の育成を図ったりしている。

○地区探検

千石地区のしだれ桜など、学校周辺の恵まれた自然・文化・人材を学習に生かして地域のよさにふれる機会を重ね、ふるさとを愛する心をはぐくんでいる。

○よだけコンサート

これまでに、オーケストラの演奏、琴や尺八、雅楽、シンセサイザーの演奏会を設けた。本年度は、寄席やマジックショーを開催し、子供たちは落語や手品を実際に体験しながらその楽しさを味わった。このように、本物にふれて感動する体験を積み重ね、子供たちの感性をはぐくんでいる。

わが校の歴史から



「師弟同行・地域と携えて」
を合い言葉に！

南砺市立福野中学校



<校区の概要>

校区である福野地域は、平成16年11月1日に南砺地区8町村の合併により誕生した南砺市の最北部に位置し、砺波市、小矢部市に隣接している。夜高祭、菊まつり等の伝統行事が盛んであり、地縁の絆の強い地域である。文化やスポーツの活動施設が整っており、サークルやクラブ活動も盛んである。

青少年の健全育成に対する意識が高く、育友会（PTA）を中心とする健全育成活動も積極的に進められている。

<学校の概要>

本校は、平成6～8年文部省（現文科省）教育課程研究開発学校指定を受け、総合的な学習を先がけて実践した。その成果として、時事通信社教育奨励賞「文部大臣賞」を受賞した。平成14～16年文科省「学力向上フロンティアスクール」指定を受け、「個に応じた学習指導の充実」に取り組んできた。平成18、19年は豊かな体験活動推進事業を小学校・高校と連携して行っている。

現在、生徒数は430名、12学級、特別支援学級2学級である。

部活動が盛んであり、文化部・運動部とも優秀な成績をあげている。毎日新聞社読書感想画中央コンクールに連続入賞、全国中学生海の絵画コンクールでも連続入賞。また、中部日本吹奏楽コンクール本大会では2年連続神納賞、全日本マーチングコンテストでは2年連続銀賞を受賞している。北信越大会には、柔道・男子バレーボール・女子剣道・女子ソフトテニス・女子卓球・水泳が出場、全国大

会には柔道・女子剣道・水泳が出場するなど成果をあげている。

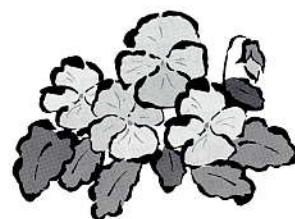
<本校の教育>

学習指導においては、6教科で2クラスが3つの教室（講座）に分かれる授業や、3人の教師が担当し2クラス同一学習内容・同時展開の授業を実施している。また、各々の授業では、互いに考えを練り合う場を設定するなど、個に応じた指導体制や学習の場を工夫し、より確かな学力の定着を目指している。

生徒活動では、朝の「読書タイム」、帰りの会後の「ふれあいタイム」、地域の方を招いての「少年の主張大会」、夜高祭後の「町内美化活動」、高校生と作る「福中花壇」、来校者も参加するクラス企画の「ふれあいイベント」、「あいさつ推進運動」、「ちょっといいこと小さな実践」の推進等、豊かな心や社会性を培う体験・実践活動の充実を図っている。

一方、部活動では、ふくのスポーツクラブや小学校のクラブ活動を礎にして、地域の絶大なる支援を下に充実した活動を展開している。

このように、本校では、「確かな学力を身に付け、汗することを厭わず、共に生きることを喜ぶ、逞しい若者の育成」を目指し、「師弟同行・地域と携えて」を合い言葉に日々教育活動に邁進している。



『学ぼう!ふるさと未来』支援事業 報告会開催

平成20年2月20日(水) 富山県教育記念館 21会議室 15:30～



神社の広場の草むしり



田植え



まゆから生系を取り出す



勝興寺子供大工教室に参加



校区の魚屋さんに教わる

富山市立堀川小学校

「子どもの自己形成と授業～地域に生きる子ども～」

- (1) 「見つけてはたらくらし」を核とした地域との連携
 - ・夏休み、冬休みの近隣ファミリー活動
- (2) 子どもたちの学校生活の充実を図る地域との連携
 - ・堀川チャレンジ活動
 - ・教育ボランティア

富山市立蟻川小学校

「はたらきかけることを楽しむ子供の育成」

- 〈3年生〉にな川大好きーお年よりとふれあう、地域とふれあうー
- 〈4年生〉守ろうぼくらの蟻川ー太田川調査隊ー
- 〈5年生〉健康な心と体をつくろうーおいしい米の秘密を探ろうー
- 〈6年生〉ふれあいを広げようー1年生、保育園、幼稚園との交流ー

富山市立神通碧小学校

「人とかかわりを大切に、主体的に追究し、自分のよさを生かそうとする子供の育成」

- ・「細入まつり」への参加
- ・米づくり体験、学習
- ・「いもいもプロジェクトー生芋からこんにやく作りー」
- ・カイコを育て、まゆから生系を取り出す

高岡市立古府小学校

「自ら課題を見つけ、主体的に追究し、自分の生き方を考えていこうとする子供の育成を目指して」

- ・みんななかよし
- ・「町のすてき」を見つけよう
- ・見つけたよ、大好きな古府の町
- ・古府っ子 昔 お宝拝見
- ・もっと知りたい お米
- ・ふるさと歴史探検

氷見市立女良小学校

「ふるさと女良の宝探検隊」

- 〈3年生〉 「女良の海にアタック」
- 〈4・5年生〉 (複式学級) 「わかめの養殖体験」「棚田の米づくり」
- 〈6年生〉 「女良の自然・文化と歴史」
- ・ ・ ・ 虹が島学習、石動山学習

※当財団より10万円の助成。来年度も4月に実施要項配布予定。

平成20年度の展示計画

- ◆特別展「富山県の学校給食90年の歩み」 4月26日(土)～6月8日(日)
- ◆「富山県版造形教育作品展」 6月14日(土)～7月13日(日)
- ◆「マセマティカル・ワールド展」 7月27日(日)～9月7日(日)
- ◆「子どもの目、自然不思議発見写真展」 9月21日(日)～10月12日(日)
- ◆「退職厚生部富山支部会員作品展」 10月17日(金)～10月26日(日)
- ◆「みんながんばってます展」 11月1日(土)～11月16日(日)
- ◆「富山県造形教育作品展」 11月22日(土)～12月7日(日)
- ◆「アイディアロボットフェスタ」 12月13日(土)～1月25日(日)
- ◆「富山県中学校美術展」 2月7日(土)～2月22日(日)
- ◆「富山大学学生卒業記念書展」 2月28日(土)～3月6日(金)
- ◆「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」 3月14日(土)～4月12日(日)



あとがき

統廃合により、県内小学校3校が廃校となります。今回の館報「わが校の歴史」にその3校を掲載しました。館報の記録に残し、できれば人の記憶に残り続けられと願っています。